# けいはんな学研都市第５期ステージプラン検討委員会第２回総会議事要旨

【第２回総会で議論されたこと】

〇次期ステージプランにおいては、その策定目的を次の通りとしている。

・ けいはんな学研都市は実証都市としての強み等をさらに発展させ、研究成果を早期に社会実装化していくことで、都市の建設を主とするステージから活用まで拡大を図っていくステージの進化が求められており、その役割を果たしていくためステージプランを策定する。

〇策定目的を受けて総会では次のような事項が論点となったところである。

・ これまでの取組の実績から強みを活かした実証・実装に至る段階まで到達していることを明確に示すべきである。
・ 具体的な取組と分かりやすさが重要である。他地域にはない強みを国内外へ発信していく必要がある
・ これまでの実績を踏まえ、国や関西の他の拠点等と連携しながら取り組み、成果を学研都市にとどめることなく、日本全体さらには海外へ発信するポテンシャルがある
・ 実装化に向けて、地区の特性に応じて文化・学術・研究の成果をいかす産業施設や生産施設の集積を図るべき

〇また文化学術研究都市として果たすべき役割には都市の当初の理念から新たな文化創造があり、文化面についても意見があった。

・ 本都市の強みである奈良・京都・大阪という文化の多様性と伝統の魅力を発信すべき
・ 本都市は、地域に息づく歴史や文化と先進性が融合し、時を重ねるごとに厚みと魅力を増していくまちのあり方を確立することが重要である、とされてきており、この考え方は現在も中心的な位置づけであると考える。

〇人材育成の観点でも次のような意見があった

・ けいはんなの強みは、理系人材を育成しながら文化を有している点にある。けいはんなは、若年層から高齢者、多国籍の人々が含まれており、多様性そのものであると考える。ステージプランには多様性やダイバーシティの考え方が重要である

〇次回、３月の総会に向けてこれらの意見を受けて、今後の取組内容の具体化などステージプランの検討をさらに進めることとする